

別添

[第15回少年問題シンポジウム実施要項]

1 開催日時

平成20年11月19日(水) 午後1時30分～午後5時30分

2 開催場所

日本消防会館 ニッショーホール (別紙地図参照)

東京都港区虎ノ門2丁目9番16号 TEL 03(3503)1486

[交通の便]

地下鉄銀座線「虎ノ門」下車・3番出口徒歩5分

地下鉄日比谷線/千代田線/「霞ヶ関」下車・A4番出口徒歩10分

地下鉄丸の内線「霞ヶ関」下車・徒歩15分

地下鉄都営三田線「内幸町」下車・4番出口徒歩15分

地下鉄日比谷線「神谷町」下車・4番出口徒歩10分

JR・新橋駅下車/地下鉄銀座線乗り換え・「虎ノ門」下車

3 事業主体

(1) 主催

(社)全国少年警察ボランティア協会/ (財)社会安全研究財団

(2) 後援 (予定)

警察庁/内閣府/法務省/文部科学省/厚生労働省

NIKK/毎日新聞社/読売新聞社/ (社)青少年育成国民会議

(財)全国防犯協会連合会/特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構

(3) 協力 (予定)

(社)日本PTA全国協議会/ (社)全国高等学校PTA連合会/ (社)東京母の会連合会

日本教育新聞社

4 シンポジウムのテーマ

「次代を担う少年の育成のために～心のコミュニケーションの回復に向けて～」

5 開催の趣旨

今日の少年非行情勢をみると、刑法犯少年の検挙人員こそ減少しているものの、少年による社会の耳目を集める事件は後を絶たないなど、依然として厳しい現状にある。

少年非行の背景としてはいくつか考えられるが、その一つに、家庭や学校そして地域における“こころのコミュニケーション”が不足していることがうかがわれる。

昨今、学校や地域での友だちや隣人だけでなく、家庭内で肉親にすら心を開いたコミュニケーションができず、自分の殻に閉じこもってしまう少年たちのことが大きな問題となっているが、このような少年たちの心のコミュニケーションの不足が、社会性に乏しく対人関係を築き得ない若者を生み出す一因ともなっているのではないかと懸われる。

このような現状を踏まえ、第15回を迎える本シンポジウムにおいては、「次代を担う少年の育成のために～こころのコミュニケーションの回復に向けて～」として、学識経験者、教育関係者、少年育成関係者等と意見を交わしながら、こころのコミュニケーションの重要性や家庭・学校・地域のつながりの大切さを来場者に訴え、どのようにすればよいかをともに考えるものである。

6 シンポジウム次第

時 間	内 容
13:30～13:40	<p>■開会挨拶</p> <p>主催者 (社)全国少年警察ボランティア協会会長 遠山 敦子 来 賓 警察庁生活安全局長 片桐 裕</p>
13:40～14:40	<p>■基調講演</p> <p>鷲田 清一 (国立大学法人 大阪大学総長) 「孤立と自立—支えあうという関係について」</p>
14:40～14:50	休憩(10分) (舞台転換)
14:50～16:00	<p>■ パネルディスカッション(第1部) [70分]</p> <p>「次代を担う少年の育成のために～こころのコミュニケーションの回復に向けて～」</p> <p>パネリスト紹介(4分)</p> <p>○ コーディネーターあいさつ(10分) 牧野 カツコ (お茶の水女子大学名誉教授)</p> <p>○ パネリスト意見発表(各12分) 土井 隆義(筑波大学大学院人文社会科学研究科教授) 原 美津子(東京都中野区立第十中学校校長) 今田 誠人(静岡県・少年警察協助力員) 月村 祥子(警視庁・巣鴨少年センター相談担当主査)</p> <p>○ 補足意見(各2分)</p>
16:00～16:15	休憩(15分)
16:15～17:25	<p>■パネルディスカッション(第2部) [70分]</p> <p>○ ディスカッション(45分)</p> <p>○ 質疑応答(15分) ◇質問—来場者 ◇回答—パネリスト</p> <p>○ コーディネーターまとめ(10分)</p>
17:25～17:30	<p>■閉会あいさつ</p> <p>主催者 (財)社会安全研究財団 専務理事 上田 正文</p>